

## 症例 2

症例提示：長野日赤 徳竹康二郎先生

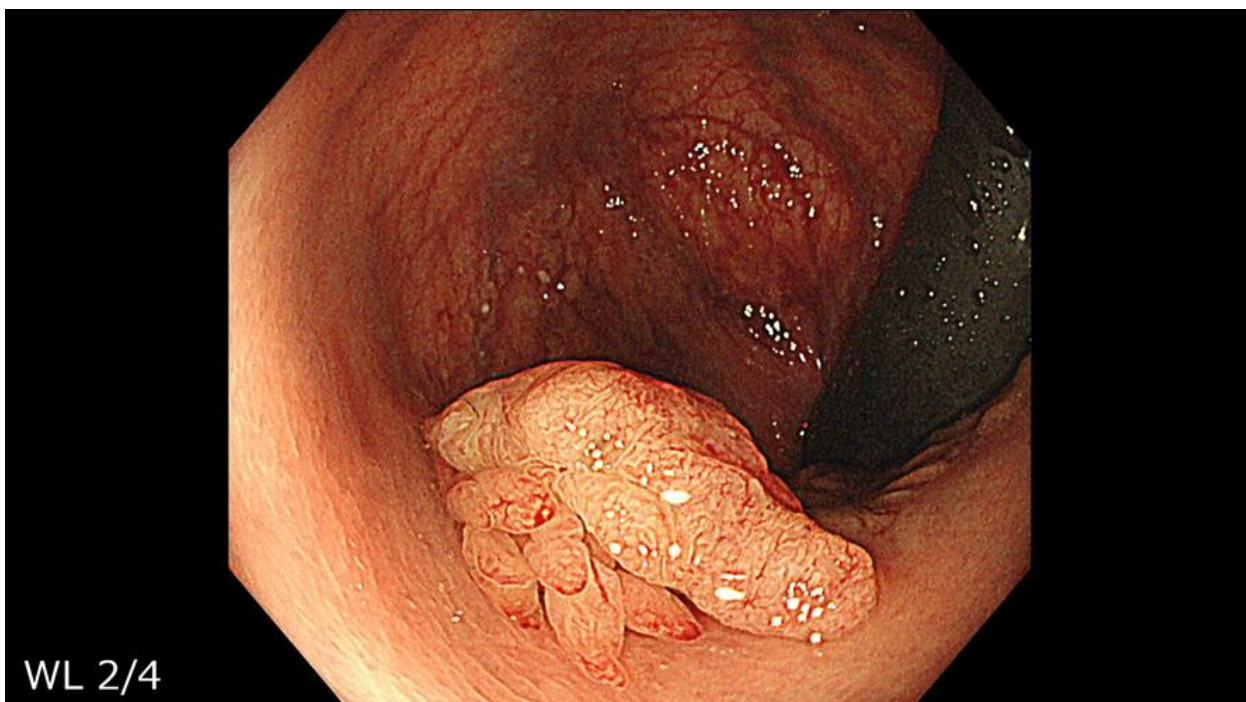
読影：岡山医療センター 若槻俊之先生

病理解説：佐久医療センター 塩澤哲先生

症例：60 歳代女性。血便にて施行された TCS にて直腸病変が指摘された。

WLI にて肛門縁に接する隆起性病変で、その周囲に flat な扁平隆起があり、当初は扁平上皮側に広がった病変と読影した。しかし、反転観察にて病変が直腸側に存在すると訂正した。扁平隆起部に白色物質が透見されたが、その診断は困難とした。隆起部から平坦隆起部まで全体を腺腫と診断した。信州大学の長屋がコメントし、隆起部は松かさ状であり、隆起部は TSA で周囲は腺腫と読影した。IC およびピオクタミン染色拡大内視鏡にて、IIIL を主体とする pit 構造が認められ基本的に腺腫で、一部が TSA と診断した。また、一部に WGA 様所見が認められるとした。石川県立中央病院の土山は、白色部は WGA であり、癌に近い状態と診断した。

和田医院の和田は、TSA には発赤が不足しており、tubulo-villous adenoma と診断した。平坦隆起部の IC 観察で既存の pit に合致しないが、鋸歯状病変よりは腺腫と診断した。



ピオクタミン染色にて若槻は IIIIL 主体とし、長屋は一部に鋸歯状な部分が認められ、さまざまな所見が混在しており、最終的には tubulo-villous adenoma とコメントした。

病理解説は徳竹が行い、ESD にて切除された検体を元に、Traditional Serrated adenoma low grade with focal high grade component であり、WGA 様に見えた部分は、ムチンに対するマクロファージの異物貪食作用が生じた腺管と解説した。

病理解説は佐久医療センター病理部の塩澤が行い、隆起部は TSA だが、一部に高分化型腺癌が存在すると解説した。静岡がんセンターの下田は、周囲の平坦な隆起部は、表層に限局して鋸歯状変化が認められ、粘膜深部に増殖帯が存在することから、Superficially serrated adenoma (SuSA) に合致すると解説した。確定診断には、各種免疫染色が必須であり、SuSA の 30% 近くには TSA が発生すると解説した。

従来報告されてきた SuSA とは肉眼像が異なり、大変貴重な症例と評価された。

